

中学校美術科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 [例] | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------|----|
| 1 | 1 <ul style="list-style-type: none"> 多様な表現方法を生徒が選択できるようにし、自分の意図に合う表現方法を模索し、様々な工夫が行われるようにすること。 様々な表現方法や材料があることや、それらの生かし方などを学ばせること。 描いたりつくったりしながら、偶然にできた表現の効果をとらえて生かすようにさせること。 これまで体験した材料や用具の特性を組み合わせて用いさせるようにすること。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっているいてもよい。 | 各7 ×2 | 20 |
| | 2 <p>換気や保管・管理を確実に行うとともに、薬品などに対してアレルギーをもつ生徒などを事前に把握するなどの配慮を行う。</p> | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっているいてもよい。 | 6 | |
| 1 | a <p>頭部の中心になる位置に、しゅろ縄や麻ひもで木片をしっかりとしぼる。</p> | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっているいてもよい。 | 各4 ×3 | 28 |
| | b <p>粘土は、片手で心棒を支えながら、心棒を包みこむようにしてしっかりとつけていくようにする。</p> | | | |
| | c <p>全体の感じを大切に、部分と全体の調和を考えながら細部を立体的に仕上げていく。</p> | | | |
| 2 | <p>耳たぶ程度の柔らかさを標準に、水を加えたり粘土板などに広げて乾燥させたりしてよく練り、自分の使いやすい固さにして使うこと。</p> | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっているいてもよい。 | 4 | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 全体と部分とのバランス、量感や表情などが醸し出す雰囲気について考えさせる。 題材名を「〇〇な友人」と工夫するなどにより、生徒自らが自分の表したい主題を生み出させるようにする。 複数の視点から友人を深く見つめさせたり、外見には現れない相手の内面を生徒自身の体験や心情から想像させたりする。 他の作品を鑑賞させ、その作品の作者の表現意図を読み取らせるなどして、表現する上では作者の感じ方や考え方が重要なものであることを理解させる。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっているいてもよい。 | 各6 ×2 | |

中学校美術科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | | |
|------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------|----|
| 3 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然の明るさを表すために純粋な色を使い、パレットでの混色を避け、筆触による描き方を取り入れている。 ・波打つ草、横からの風、雲の動きなど、瞬間の情景を軽いタッチで効果的に描いている。 ・明度の高い色を様々な筆のタッチで組み合わせる点描法で色のある陰影を表現している。 ・逆光線の微妙な色の変化や服が風で揺らいでいる様子を表している。 | 1つ書かれていればよい 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 8 | 24 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形要素に着目して感じ取らせたり、作品の全体的なイメージをとらえさせたりして、主題に基づいた表現の工夫や作者の表現意図に気付かせること。 ・作品から自分が感じたことや、作品について自分が考えたことの根拠を明らかにさせること。 ・異なった見方や感じ方があることに気付かせること。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各8×2 | |
| 4 | 1 | 二曲一双は、コンパクトで集約的な画面に特徴があり、床に立てる場合、V字に折り曲げ、左右両端のパネルは少しの角度をもって向き合う。そのため、風神と雷神が互いの視線を交差させ、対峙性を強調した緊張感のある構図になっている。 | 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 7 | 21 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・導入段階で生徒が題材を自分のものとして受け止め、主題を考えやすくするための問いかけをする。 ・対象から感じ取ったイメージや、自己を見つめて生じた感情などを言葉にして書きとどめ、それを基に主題を考えさせる。 ・主題や制作意図を深め、より明確にすることができるよう、言葉や文章で主題を書かせたり、会話で聞き取ったり、作品名を付けさせたりする。 ・参考作品である二曲一双の屏風形式の特徴や構図の工夫を生かして主題を考えさせる。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各7×2 | |
| 5 | 1 | 次の点を踏まえて場面設定がされていること。 ○ 生徒にとって意欲的に取り組めること。 ○ イメージキャラクターを活用する目的が明確であること。 ○ 実生活と結びついた場面や手段であること。 | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 | 12 | 32 |
| | 2 | <p>作品</p> <p>次の点を踏まえて、作品を描いていること。 ○ 自分のイメージキャラクターが、場面設定にふさわしい意味のあるデザインになっていること。</p> <p>制作意図</p> <p>次の点を踏まえて、制作意図を書いていること。 ○ 伝えたい内容やイメージと表現の工夫を関連付け、イメージキャラクターの果たす役割を踏まえた記述があること。</p> | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 作品と制作意図が対応しているものだけを正答とする。 | 20 | |

中学校美術科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 [例] | | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----|
| 6 | 次 | 学習活動 | 指導上の留意事項 | | |
| | 1 | 課題設定と鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の和菓子を鑑賞し、季節感や和菓子らしさを感じるところ、及びその理由をワークシートに記入させる。 ・作り方で工夫されていると感じるところを鑑賞し、ワークシートに記入させる。 ・和菓子に付けられた名前にも注目させる。 | | |
| | 2 | 表現の発想・構想 | <ul style="list-style-type: none"> ・和菓子のテーマを決定するために、日本の季節などから連想する言葉を書き出させる。 ・表現の工夫や配色などに和菓子らしさを取り入れるという視点をもって、アイデアスケッチを行わせる。 | | |
| | 3 | 制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・粘土べらやさらし布などの用具をグループごとに配付し、表現意図に応じて効果的な表現ができるようにする。 ・制作途中で生徒の作品などを何点か取り上げて、効果的な表現方法を紹介する。 ・季節感のある魅力的な作品名を考えさせる。 | | |
| | 4 | 鑑賞と振り返り・まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の制作意図や表現の工夫について、ワークシートに書かせることで、制作を振り返らせる。 ・互いの作品を鑑賞し、季節感や和菓子らしさを造形要素に着目させて批評し合うようにさせる。 | 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 | 27 |
| 7 | <p>次の点に留意して描いていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 形を正確にとらえて表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって立体感を表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって質感を表現していること。 ○ 画面にバランスよく構成していること。 | | | 各 12 × 4 | 48 |